

インターバンクの声（2016 年 12 月 29 日）

今年の最終週となっている東京外国為替市場は、海外の主要市場の多くが週末の後にクリスマス休暇が繋がっていたこともあり、市場参加者の減少から限られた値動きの日々が続いていた。

ただ、昨日の海外市場はロンドン勢、ニューヨーク勢が戻って来たこともあってか、ドル円がニューヨークの昼過ぎから、ユーロやポンドはロンドンの早朝から大きく動き始めた。ドル円は米 5 年国債の入札が終わった頃からドル売りが進み、週初の東京市場で付けた 117 円台前半まで下げ、今朝の東京では 116 円台まで下げている。

米長期金利の低下が大きく影響していると思われるが、来年始まる英国の欧州連合 (EU) 離脱交渉に対する懸念で、ユーロやポンドの売りに伴うクロス円の下落がドル円の下げに連動しているとの見方もあるようだ。

ポンドは 10 月に付けた 1.20 ドル台の安値に迫るような動きを見せ、ユーロは昨年 4 月に付けた 1.04 ドル台後半の水準を既に割り込んでいる。今日からスポット (直物) 取引は決済日が来年になり、普段に近い市場の厚みが戻る可能性もあり、ひょっとすると年末に一相場あるかも知れない。

提供: SBI リクイディティ・マーケット株式会社

お客様は、本レポートに表示されている情報をお客様自身のためにのみご利用するものとし、第三者への提供、再配信を行うこと、独自に加工すること、複写もしくは加工したものを第三者に譲渡または使用させることは出来ません。情報の内容については万全を期しておりますが、その内容を保証するものではありません。また、これらの情報によって生じたいかなる損害についても、当社および本情報提供者は一切の責任を負いません。

本レポートに表示されている事項は、投資一般に関する情報の提供を目的としたものであり、勧誘を目的としたものではありません。投資にあたっての最終判断はお客様ご自身でお願いします。